

東北地域論 現地調査報告

<趣旨・目的>

授業で紹介している場所の多くは、10～30年前に訪れたもので、いくつか未訪問の場所もある。そのため現況が不明な場所がほとんど。

そこで、その場所を訪れて現況を撮影し、調査報告を作成してもらおうと、大変うれしです。

我こそはと思う人は、以下の要領に従って挑戦してみてください。でき具合に応じて、期末試験の代替として採点・評価します。

<章節構成の例>

・ **冒頭**に**タイトル**：対象地名とその特徴や要点を表す語句（副題）をひとこと

例：仙台 — 支店経済からイベント都市へ
泉中央 — 副都心 30 年の変化

・ **1. 目的**：その場所を取り上げようと思った動機・理由、授業との関連、論述の段取り＝構成について述べる。

・ **2. 概観**：その場所の立地を地図で示し、立地特性や関連する歴史を概説。自らの観察・経験のほか、既存の文献、記事、web 情報等を引用してよい。

・ **3. 現況**：その場所の詳細に複数視点から撮影した写真の撮影地点を入れた図を示して、写真を提示し、それぞれ説明文を記す。

・ **4. 考察**：調査した内容が、授業での説明内容の深化や、東北の地域性の理解にどうつながるか、考察する。

◇分量 … 1800～2000 字

※図表や画像中の文字はこの数に含めない

※字数は、内容が伴っていれば超過してよい。

<体裁>

- 1) ワードプロ（Word 等）使用
 - 2) A4 紙をタテに使う。表紙不要。
 - 3) 余白：24 ミリ（上下左右とも）
 - 4) 頁番号を下（フッター）に入れる
 - 5) 1 頁 37 行程度、1 行 40 字程度で、行間をつめ過ぎず、文字間を開けすぎない。
 - 6) **タイトル** … 14 ぽ、明朝体・太字
 - 7) 学籍番号・氏名 … タイトル下、11 ぽ、明朝
 - 8) 本文文字 … 10 ぽ、カナ漢字：MS 明朝、英数字：半角 Times New Roman
 - 9) 内容のまとまりに応じて段落を作ったり、小見出し（10.5 ぽ、**ゴチ**）を入れる。
 - 10) 本文は 2 段組みにしてよい。
 - 11) 図表・文章・記事等を他から引用した場合は、引用元の文献名や URL などを、各章の末尾にリストにして付す。
 - 12) 配布資料の図を画像にして貼り込んでもよい。
 - 13) 複数枚になる場合は、ぴったりそろえて、左上スミをホチキスでとじる。
 - 14) 両面印刷してよい。
- 引用の場合は、引用元のリストを本文末尾に一覧にして付す。